

4 改善に向けた学長方針

2007年度自己点検・評価の結果及び2007年度認証評価の結果，明らかとなった長所や課題に対して，さらなる改善を推進する。以下に，これら評価結果を基として推進する大学改革の重点事項を示す。

1 グランドデザイン（将来構想）の策定

大学を取り巻く激しい社会状況に対応した改善を推進するため，本学のグランドデザインを策定する。このグランドデザインは，建学の精神「権利自由・独立自治」に基づき「個を強くする大学」の具体的な方策を示すもので，その基本的な方向性は「世界に開かれた大学，Open Minded University」の実現である。18歳人口の減少を踏まえ，本学は，年齢や国籍等にとらわれない教育を実現し，また様々に異なった社会，文化，地域を超えた連携を促進する。

特に，中野キャンパスを考慮したキャンパス再編に関しては，学部・大学院が同一キャンパスで一貫教育のできるキャンパスづくりを推進し，同キャンパスを有効利用することで，他のキャンパスの充実・発展を図る計画を推進する。

グランドデザイン策定に向けた改革の基本的方針

改善項目	改善内容
新しい教育体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス再編と適正規模の確立 ・教養・国際教育プログラムの充実 ・大学間連携の推進（包括協定等の締結の促進） ・学生支援の充実
研究体制の強化・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・競争的資金の積極的導入 ・研究施設の充実 ・先端研究の推進 ・研究支援体制の整備
国際化と情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生受け入れ，派遣の推進 ・研究者交流の推進 ・海外拠点の強化 ・遠隔教育の確立
社会連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学民連携の積極的展開 ・生涯学習・男女共同参画社会への貢献 ・エコ・キャンパスの推進 ・ボランティア活動の推進

2 研究活動の推進

2008年6月，本学は自然科学分野でグローバルCOEの採択を受けたが，人文科学や社会科学分野でもグローバルCOEに申請し，採択されるように，本学の研究全体を活性化させる必要がある。そのため，研究施設ならびに研究支援体制の充実，喫緊の課題

である。特に、認証評価において、更なる研究成果を生み出すには担当授業時間の多さや各種委員会への参加による時間的制約があることの指摘を受けており、適正な研究環境整備に向けた取り組みを行う。

研究活動推進のための改善方策

改善項目	改善内容
外部研究資金の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携（TLO、インキュベーション、ベンチャー育成）の推進 ・科学研究費補助金への応募件数・採択数・採択率の増加 ・研究クラスターの定着
教育・研究振興基金の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・重点的な資金配分と基金の充実 ・グローバルCOEの育成，助成
研究支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉キャンパスにおける研究支援体制の整備 ・科学研究費補助金を獲得する上で必要な施設設備の充実 ・競争的資金を獲得した研究者に対する授業時間の軽減，個人研究費の増額等の支援措置 ・専門的支援者の配置

3 戦略的国際交流の推進

この数年間、本学でも国際交流ならびに国際的連携の強化に努めてきたが、同規模大学と比較して、まだ不十分な状況である。特に、文部科学省が策定した「グローバル30」の対象校に選定されるためには、早急に留学生の受け入れ，送り出しを強化する方策を実施する必要がある。そのための基盤整備は、緊急の課題となっている。

戦略的国際交流の推進のための改善方策

改善項目	改善内容
研究交流体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・国際戦略機構（仮称）の設置 ・戦略的協定校政策（交換留学，研究交流，包括交流，ダブルディグリー）の強化 ・相互連携プログラム（日加交流促進プログラム，日仏共同博士課程）の構築促進 ・海外サテライトキャンパスの拡充
留学生の増大と支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ増大 ・受入れ増大のためのインフラ整備（留学生用住居の確保，外国人研究者用宿舎の確保，奨学金の充実） ・送り出し留学生増大 ・日本語アカデミーの設置
大学院・専門職大学院における学術交流の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・研究科横断共通科目の拡充 ・大使館，国際支援機関，NGO，企業等との連携
グローバルキャンパスの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流ラウンジの有効活用 ・日本人学生ボランティアの充実 ・外国人研究者受入れのためのホスピタリティ向上
地域研究の推進と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ研究の世界的拠点の形成 ・アジア・中国，イスラム研究のグループ立ち上げ

4 社会連携の推進

大学として社会連携及び地域連携を積極的に進めているが、同時に、各学部・研究科などでも独自の連携を進めている。そして、現在、多様な地域、大学等から、本学との連携に期待を寄せられているが、これらの連携事業を組織的に実施するための支援体制を構築します。社会連携及び地域連携を支援・発展させることは、「世界に開かれた大学」実現のため、急務の課題である。

社会連携の推進のための改善方策

改善項目	改善内容
生涯教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国籍、性別、年齢、職業等を問わない教育課程・プログラムの設置 ・ 教員の協力を得られやすい基盤づくり ・ 支援に関する人的・物的基盤づくり
地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携地域の増大（連携協定等の締結促進） ・ 連携施策実施のための人的・物的基盤づくり ・ 教育的財産を継続的に蓄積するため、地域との関係強化を図る施策の実施 ・ 全体の動きを把握する学内インフラの確立

5 施設設備計画

上記1から4の事項を推進するための長中期計画の策定においては、その教育プログラム、カリキュラムおよび教職員人事等の充実は当然のことであるが、施設・装置等のハード面の整備も重要課題である。以下に、現時点で重点的に検討する必要があると考える施設等について提示する。

なお、認証評価において助言を付された和泉、生田地区におけるバリアフリー化の必要性については、より一層の促進を図る。

地区	建設施設
駿河台キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ C地区整備計画（研究ラボタワー） ・ スチューデントセンター ・ 駿河台文化リエゾン棟 ・ 国家試験指導センター ・ 新研究棟
和泉キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新図書館 ・ スチューデントセンター ・ 新教育棟および新研究棟
生田キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携交流館（仮称） ・ 登戸研究所展示資料館（仮称） ・ 安全管理室（仮称） ・ 生田総合分析評価共同センター（仮称） ・ 図書館、体育館等の老朽化施設の建て替え